



女性の活躍推進に必要な わたしの かかりつけ医

船津クリニック 院長
船津 雅幸



<船津 雅幸> プロフィール
横浜生まれ、東京育ち。
昭和59年昭和医科大学卒業。
昭和大学病院・亀田総合病院・蒲原総合病院・隠岐病院など7つの基幹病院および2つの産科医院勤務を経て、平成18年12月に静岡県富士市に船津クリニック開設。
医学博士・産婦人科専門医・漢方専門医。女性医療ネットワーク理事。



船津クリニック
〒416-0095
静岡県富士市川成新町295
0545-65-7272
http://www.funatsclinic.com

女性のヘルスケア治療に力を注ぎ、漢方薬やホルモン剤を用いて月経関連疾患や更年期症状に向き合っている。専任スタッフによる女性の健康相談や思春期相談も行っている。

船津クリニックは、産婦人科と漢方を専門とする船津雅幸院長と、薬剤師で思春期保健相談士の資格をもつ船津裕子さんとお二人で支えあって診療されています。診察前に相談室で裕子さんがじっくり話を聴き、その情報を船津院長が診察に反映することもあれば、診察室での問診時に何か背景にありそうだと気付くと相談室を利用してもらうなど、二人の連携で女性のヘルスケアと思春期の心身の悩みにいろいろな角度からアプローチをしています。「私と妻が力を合わせて取り組めるのが、わがクリニックの強みです」と語る船津院長。産婦人科医で女性の健康にも

詳しく、かつ漢方の専門医でもある船津院長に、特に漢方を用いた治療についての特徴を含めてお聞きしました。

からだ、その人全体を見る 東洋医学

今では大学でも東洋医学の講義が行われるようになりましたが、昔は漢方の考え方自体が否定的で、本当に効くの？と眉をひそめる方も多かったですね(笑)。エビデンスも最近徐々にやっとな確立されてきました。痛みなどがあり病院に行くと、身体はどこがどんな風に悪いのかを検査し、専門領

域の異常が見つからなければ「心配ありません」で片づけられる事が多くありませんか？「異常ありません」と言われても痛みなどが続いていると辛いですよね？これが一般的な、つまり西洋医学的なアプローチです。そういった場合でも症状に即した漢方薬が効くことがあります。東洋医学はアプローチが西洋医学と異なるのです。漢方には気血水という概念があります。気・血・水それぞれの不足や停滞がからだの不調を引き起こすと考えます。このような東洋医学独特の診察方法、判断で漢方薬を選択していきます。漢方は、症状ひとつだけを見るのではなく、からだ全体、その人を見ますので、同じ症状でも人によって薬が変わることがあります。その人の体質や今の体の状態によって薬を選びます。一見関係のないように見える複数の症状にもひとつの漢方処方に対処できることもあります。

押しします。まだ汗が出ていない状態の時などはそれに合った漢方薬を飲むと汗が出て、サーッと治ることはよくあります。ですから無理やり熱を下げると治るのが遅くなるかもしれません。

ジが強いかと思いますが、当院は女性疾患も含め女性のかかりつけ医として女性のトータルな健康を考えており、婦人科・内科を標榜をしています。初診には30分時間を取っていますので、まず「訴え」を聴き、そこから関連したいろいろな症状をお聴きしていくと分かってくる事があります。漢方薬が有効だと判断しましたら服用していただき、効果を自覚すると患者さんの方から漢方薬を希望され、違う症状の時に漢方を出すのが当たり前のようになる方もいらっしゃいます。漢方が好きで12年通院されている患者さんもいます(笑)。当院は医療用漢方のみなので全て保険適用です。

つと早くに来院いただければ、と思ったケースはたくさんありました。なかなか他人にわかってもらえない女性特有の辛さを我慢する必要はありません。気軽にご相談にいらしてください。引き続き次号では月経痛や隠れ貧血などについて、奥様の思春期保健相談士・薬剤師の船津裕子さんにお話を伺います。

漢方薬との正しい付き合い方

漢方薬は効果が出るまでに時間がかかると思われている方が多いですが、即効性があるものもあります。足がつるとい症状、こむら返りは芍薬甘草湯という特効薬を飲むと15分で効きます。風邪で熱があると西洋医学的には解熱剤を出しますが、高熱はウイルスをやっつけようという体の反応です。解熱剤ですぐ熱を下げるという事は、実は治癒を遅らせてしまうかもしれないと私は考えます。漢方は自然な体の治癒力を後

漢方薬は、女性の更年期症状の緩和にもよく使われます。数ある漢方処方の中で「桂枝茯苓丸」「加味逍遙散」「当帰芍薬散」の三つの漢方薬が「婦人科三大処方」と呼ばれています。冷え・のぼせ・めまい・頭痛・動悸・不眠・不安感など、更年期障害に見られるほとんどの症状に対応できるのが特徴です。元々子どもの夜なきや疳の虫に使う抑肝散は、不安定な子どもとイライラするお母さん両方に飲んでもらうとよく効く母子同服の代表薬です。

気軽に相談できる婦人科を 目指して

婦人科というと敷居が高く、かかりつけ医というと内科のイメージ

女性でお腹が痛いなどの症状があっても婦人科受診に繋がらないことがあります。そのために建物の雰囲気を考えたり、ホームページで発信したりして、女性が受診しやすい様にと考えています。も

産婦人科はなぜ受診しにくいのでしょうか。もともと妊娠・出産が主で、産婦人科を受診すると妊娠していると周囲に思われるのでは、という声をききます。最近は船津先生のように女性の一生の健康を支えるという考えの産婦人科医が増えてきました。ヨーロッパでは、娘が思春期になると、母が婦人科に連れて行き、生理関連のこと、検診などの相談をはじめめるそうです。女性医療ネットワークHPのMyドクター検索で、あなたのかかりつけ医を探してみてください。

北 奈央子
聖路加国際大学大学院博士後期過程在学・ヘルスリテラシーの研究に従事。女性医療ネットワーク (<http://cnet.gr.jp/>) 広報、女性のためのヘルスケアサイト (<https://w-wellness.jp/>) 運営

ヘルスリテラシー
北奈央子のヒトコト